

2026 年度大学院入試  
後期日程（社会人特別入試）

出題の意図と求める解答

近年の社会情勢の変化により医療界は大きな変革を迫られている。少子高齢化、慢性疾患の増加、医療の高度化、災害などにより医療費は高騰を続けている。これらの対策として厚生労働省は比較的安定した状態であるが、医療を継続する必要がある患者を在宅に戻す政策を打ち出している。つまり、国民は自立して自身の健康を守らなければならない。セルフケア、セルフメディケーションが求められていることになる。また、近年には医療提供者側主導から消費者（つまり受け手である患者）主導へとパラダイムシフトが起こり、受け手である顧客（患者）の多様なニーズに応える多様なサービスを充実しなければならない時代へと突入した。医療従事者は病を持つ人も健康な人にも自立して健康を維持・増進できるように仕向けること、病を持つ人は適切な管理を行えるよう支援する役割が求められる。アドヒアランスの概念はこれらの状況を鑑みた重要なアプローチであり、看護師に求められる機能である。

患者を生活者として捉え、個々のセルフケア能力を把握し、積極的に治療に参画できるように支援する。また、そのためには患者との信頼関係を築くことも重要となる。

回答にはこれらの要素が含まれることを求める。

解答例

- ① アドヒアランスは患者の主体性を重視する考え方であり、アドヒアランスを高めるためには、医師や看護師をはじめとした医療従事者側のコミュニケーションスキルを高め、生活者としての患者を理解することが求められる。
- ② 患者側として自身の直面している問題に前向きに取り組み、必要な支援を医療従事者や家族に求めるなど、適切なソーシャルサポートを求められるスキルを獲得することが必要となる。
- ③ 患者一人一人の自身の病気に対する正確な理解が鍵となるため、まず、自身の病気を正しく理解できるように指導すること。さらに、それに基づく自主的なセルフケア行動がとれるように教育・指導することが求められる。
- ④ アドヒアランスの概念は、医療従事者の勧めに患者が同意していること、医療従事者と患者が互いにパートナーであり協働していることであり、患者が自律的に意思決定していることが重要である。自身の行動が治療の中重要な役割を担っていることを認識できるように仕向けること、対象者個々の生活背景を把握し、生活スタイルに合わせた方法を患者自らが考え、提案し、医療者とともに作り上げていく支援が必要である。